

横浜実践看護専門学校

令和6年度学校関係者評価 報告書

1. 学校関係者評価委員会実施要領

日 時	： 令和7年5月28日(金) 13:30～14 : 30
会 場	： 横浜実践看護専門学校 8階 808・809演習会議室
出席者	〔学校関係者評価委員〕
・ 土屋	恵美子様（横浜州市市民病院 副病院長 兼 看護部長）
・ 村上	博美（独立行政法人地域医療機能推進機構 相模野病院 看護部長）
・ 多田	功（神奈川県立山北高等学校 校長）
・ 鈴木	理香（在宅療養支援ステーション楓の風 武蔵小杉）
〔本校教職員〕	
・ 山川	美喜子（校長 兼 経営管理チームGL）
・ 井上	登美子（経営管理チーム SL）
・ 廣田	晶子（教務チーム GL：教務主任）
・ 櫻井	道子（教務チーム SL）
・ 齋藤	優（教務チーム SL）
・ 高橋	日奈子（教務チーム 実習調整）
・ 稲尾	万純（教務チーム 実習調整）

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

(1) 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・学校の理念・目的・人材育成像は定められているか ・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構造を描いているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・目標育成人材像・特色などが学生、学生保護者に周知されているか	・担任から年度初めのHR・休暇前後のHR、開講時や実習オリエンテーションなどの機会に、教育計画を教育理念・目標を繰り返し説明し、目指すゴールを明確にした。自分が目指す看護師像をイメージしながら、看護への関心とモチベーションを持続できるよう、学校生活の中で繰り返し働くかけることが重要になる。 ・4月の対面での保護者会を開催し、学校の理念や特色を周知する機会となっている。3年生の国家試験合格に家庭や保護者のサポートが必要不可欠となるため、3年の保護者へ「3年生通信」を3回発信し、積極的に働きかけた。 ・学年ごとに学び経験の積み重ねを実感できるように、学生便覧やカリキュラムマップを活用し、学生や保護者との共有をはかる。 ・自己肯定感を向上しつつ、学生の成長や学びを支え自立を促す指導が重要となる。そのため、学生への変化や成長も学生が実感できるよう、学生に機会を逃さず伝えた。教員間の情報共有と意思疎通を図り、指導の方向性は合致共有を行った。	・学校の理念・目的・カリキュラムなど対面で丁寧に説明し、理解を得ることは大変意義である。 ・学校生活が保護者もイメージできるような関わりは今後必要である。

(2) 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・目標等の沿った運営方針、事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は規則などにおいて明確化され機能しているか ・人事・給与に関する規定は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	・公務分掌規程や年度初めの事業計画など教職員会議での周知が徹底された。また定位置に組織図、業務分掌などを掲示することで、より明確化された。 ・教務事務と学年リーダー・実習調整・教務主任間での報告・連絡・相談が徹底され意思疎通が図れた。業務分担の明確化と業務整理につながった。 ・各種オンラインツールの活用は浸透している。引き続きITを活用した効果的な教育並び業務管理は今後も継続し、効率化を図る。	・全委員の総意により適正に評価できるという結論に達した。

(3) 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか ・教育理念・育成人材像や看護師需給を踏まえた修業年限に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確か ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの教育方法の作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な教育が体系づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか ・職員の能力開発のための研修が行われているか	・確実な単位履修の結果、旧カリキュラムの学生全員卒業となる。 ・学力低迷者の本試験不合格者が多い科目は補講の実施、授業では確認テストの実施、試験の解説など時間を十分に確保した。再試験対象者に補習講義を実施し成果を得た。 ・来校した卒業生に国試対策や日頃の学習の取り組み、実習期間の仕方など話を聞くことにより、学習のさらなる動機づけが課題となる。	・高校の学力の2極化の問題となっている。読み書き、簡単な計算問題を苦手する生徒が増えている。同時に学習習慣がない生徒も多い。その現状を踏まえると、基礎学力の底上げと学習習慣の獲得は大きな課題である。 ・看護師になる目的意識を明確にし、学生個々の学習状況に応じた継続した指導が求められる。 (試験前の確認テストや再試験の補習講義など)

(4) 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	・病院説明会やインターシップに参加しながら就職活動を行った。看護職として就職をしないと決めた学生1名を除き、全員が希望する就職先に就職ができた。 ・3年課程（養成所）の国家試験合格率は95.8%、全国91.1%であり、既卒者は100%合格の結果であった。新卒者の全員合格には至らなかった。成績低迷の早期学習支援の実施と、後半のメンタル面の対応をサポートして学校での個別指導の継続が課題となる。 ・学生は計画的に就職活動や就職先や書類の記載など相談に来た。すべての実習終了後、国家試験受験後に就職活動をした学生もいたが、就職率は100%であった。 ・退学者は19名であり、8%である。退学率の低減が課題である。 ・3年次担当教員を中心にデータ分析と、これまでの丁寧な個別指導対応に加え、学内、学外の国家試験対策施策を積極的に導入。臨床判断能力に必要な基礎知識の獲得は必須である。模試の効果を判定しながら、不合格者の要因分析を踏まえ、より効果的な国家試験対策施策を見極めて行く必要がある。また、学校と連絡が取れない学生については保護者と連携し、登校し学習に取り組むことが課題である。	・就職活動の支援を、学年ごとに計画的に運用されている。 ・病院も看護師確保に苦慮している。早期退職に繋がらないよう、新人教育は時間をかけゆっくりと手厚い指導をしている。指導が「怒られた」にならないよう表現に配慮している。

(5) 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備できているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生の支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	・成績低迷や出席状況の低下や受講態度に変化がある場合は、積極的に保護者に情報提供を行い、保護者と連携を図り学生指導を進めた。学生が保護者に伝えている内容の齟齬、学生の意思に任せていると協力が得られない保護者、まったく連絡が取れないなど状況は様々である。学校と家庭でのダブルサポート体制の充実と、保護者との連携作りは課題である。 ・学習習慣がない学生、基礎学力低迷の学生が2割弱を占める。入学前よりメンタルサポートを受けている学生も増加している。 ・経済的に困窮している学生も増加している。奨学金担当者との情報提供や情報共有も図れた。学業を継続するため支援体制は整えられた。 ・卒業時、学園と学校と卒業生の連絡ツールとしてグループラインを作成した。情報提供や情報交換に今後活用する。 ・学生が立ち上げた2つのサークル活動も順調に運営され、メンバー以外の学生の認知度は高まった。 ・引き続き、学生個々の状況に応じた指導（生活面や学習面）、保護者の学校とのダブルサポート体制を整える。また、保護者との関係構築のアプローチを継続する。 ・希望する就職先への就職、早期離職に繋がらないよう自分に合った就職先の選択、自分のキャリアデザインを描き就職ができるようサポート体制を強化する。	・学生支援は、教員だけでなく、保護者との連携は不可欠となる。今後も保護者と情報共有し連携を図ってほしい。 ・病院実習の指導では、実習指導者が学生のモデルとなるようにと意識付けを行っている。学校と連携し、実習指導の充実の向上を目指す。 ・臨地実習は、病院、訪問看護ステーション、施設など様々な施設で多様性のある対象の看護を学習する。臨地実習の中で、学校と実習施設の連携が図られているかが重要となる。施設と学校との情報共有もされており、学生支援の整備はされている。 ・卒業生のLINE登録の取り組みはとても良い。今後も卒業生の繋がりを大切にしてほしい。 ・高校も臨床でも、学習習慣がない、基礎知識の低下、意欲低下など、学校と同様の問題を抱えている。問題解決に向けて、継続した取り組みが必要である。

(6) 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・施設設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場などについて十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか	・教育設備の修繕は、使用頻度の高い機器（マイク・変換機）交換、ブラインドおよびLEDの交換を行った。 ・学内外の不測に事態に対応できるよう特化した保険に学生は全員加入している。保険適応の事例はなかった。 ・防災設備・備蓄点検の実施。避難訓練2回/年は経過的に実施、防災の周知に継続し取り組んでいる。 ・学校施設および備品の点検作業を行い、修繕計画立案と実行につなげる	・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(7) 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか ・学生納付金は妥当なものになっているか	・Instagramのストーリーズなどを活用した。学生の普段の学校生活のありのままの様子を発信した。学校生活情報を多角的に発信した結果、校名認知促進に繋がった。 ・高等学校の進路担当教員との連携、現役生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベント、近隣の他県に学校説明会イベントに参加した。しかし、大学進学希望の傾向が進み、学生募集に苦慮した。 ・Webサイトの閲覧数や募集要項の反応など情報を収集し、情報発信を強化する。 ・看護師の魅力、資格取得や就職情報など本校の取り組みなど、高校生、既卒生それぞれの関心事に合わせた募集イベントを設定する。	・学生募集に苦慮していることは、十分理解できる。その状況を踏まえ、高等学校など関係機関との連携、募集イベント、Instagramなど工夫し、学生募集の取り組んでほしい。 ・男子学生の入学者（1割強）が増加した。海外研修も魅力に繋がる。学生募集に繋げてほしい。

(8) 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開監査の体制整備はできているか	・学校の予算計画を基に財政状況は適正に運営している。 ・財務の会計監査および情報公開体制の整備を引き続き取り組む。	・全委員の総意により適正に評価できているという結論に達した。

(9) 法令等の遵守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・法令、保健師助産師看護師法、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のため対策が取られているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公表しているか	・法令等の遵守は、行政指導のもと適切に実施し、情報公開をしている。今後も点検項目や評価基準及び手法の妥当性について精査を進める。 ・生成AIの浸透により、いつでもどこでも活用が身近となった。学生の生成AIの認識や活用方法など情報管理の周知徹底が必要となる。 ・教育における生成AIに関する知識や実際の活用について、倫理面に配慮し活用できるよう学生および教職員へ周知徹底を図る。 ・デジタル社会における個人情報保護の意味について法令を遵守するよう学生に、場面（学内・臨地実習）や状況など具体的事例を提示し周知徹底する。	・生成AIの浸透により、さらな情報管理の徹底は重要となる。生成AIの知識のもと、正しい活用方法の周知徹底を図ることは必要である。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・ボランティアなどの社会活動に参加しているか	・県内総合高校に通う高校生20名を受け入れ、看護職について学習を深め、実習室を利用し看護体験を実施した。学生の看護技術の練習や学生と交流する機会を設けた。学生は、高校生の反応を捉えながら説明をするなど対応していた。 ・認知症高齢者とともに走るチームオレンジのボランティア、地域連携講座や神奈川県との包括協定などボランティア活動に参加した。地域のボランティアに自らメンバーを募り参加するなど社会活動に貢献している。 ・学園と学校スペース管理ツールを活用し、会社の研修会場としての利用も増加している。学校教育資源と施設の活用に貢献している。 ・地域連携講座や神奈川県との包括協定などボランティア活動を計画的に紹介し、学生が社会・地域貢献することにより自らの成長に繋げる。	・ボランティア活動に積極的に参加することは、学生の社会貢献の意識の向上に確実に繋がっている。引き続き学生の成長する機会となることに期待する。 ・学校教育資源を、研修会場として貸し出しをすることは、学校の認知度のさらなる拡大繋がる。スペース管理ツールも活用されていることがわかる。

(11) 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・国際交流を意識した授業科目が設置されているか ・国際的視野を広げるための学習環境を整えているか	・4月に台湾の花蓮市の地震があった。台湾研修に影響がないことを十分確認し実施した。高雄市にある輔英科技大学看護学科の学生との交流や医療施設の見学を通じて他国の医療体制や異文化の価値観の違いなど多様性についても学んだ。8月より研修準備を開始し研修に臨み、台湾での研修の研修は、国際的視野を広げるためのカリキュラムの有意義な位置づけとなっている。 ・感染症や国際情勢と自然災害なども鑑み、今後も国際的視野を広げるためのカリキュラムを充実させる。	・国際文化交流Ⅰ・Ⅱは、特徴的なカリキュラムである。学生の成長にもつながる。 ・学生募集につながる、魅力のあるカリキュラムである。今後も有意義な海外研修に期待する。また、海外研修の様子を、積極的にアピールすることも重要となる。

以上